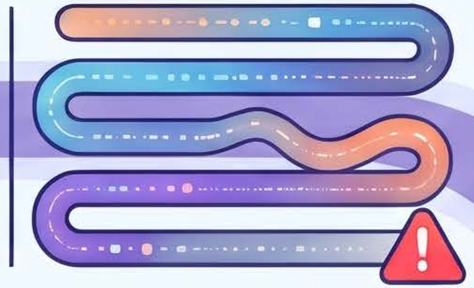
Gemini 4 Carbonの評価と知財実務への影響予測

Gemini 4 Carbonは総合ベンチマークで首位を獲得したものの、利用は限定的でハルシネーションの増加も確認されています。
知財業務への活用では自動化の可能性が高まる一方、人間による原典確認と厳格なガバナンス態勢の構築が不可欠です。

Gemini 4 Carbonの性能と限界

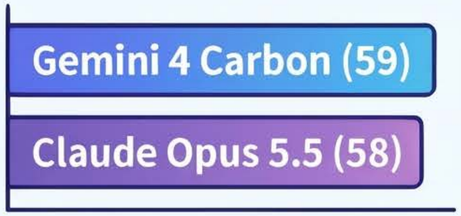


総合スコア59点・首位を獲得（アクセスは限定的）



長文脈調査に強みもハルシネーション率は11%へ上昇

1Mトークン対応で調査を加速する一方、誤情報率が4%から増加。



Gemini 4 Carbon（59）の性能と限界

Claude Opus 5.5を超えるが、一般向けAPIは未提供。



1タスク$7.76とOpus 5.5より約23%割安

初回応答まで約100秒と低速なため、対話型よりバッチ処理向き。

知財部門・特許事務所が取るべき推奨アクション



今は乗り換えず、自社評価セット（20〜50件）を作成

過去の拒絶理由対応や調査案件の実データを用い、自律的に精度を検証する。



人間の目による原典確認（ファクトチェック）を義務化

架空引用の処罰事例を鑑まえ、AI間相互チェックのみの検証を禁止する。





秘密保持ガイドラインの策定と企業向け環境の選択

クライアント同意を得て、データ非保持が保証されたVertex AI等を検討する。

Gemini Notebook